

主題は、信毎デジ2024年1月12日の記事の見出しだ。心にガーンときた。副題の話題を2つ。

八ヶ岳横岳小同心正面クラック-2023年12月30日の記録

OWCC松田明博さんがまだここを登っていないというので、ぜひに、と2人で出かけた。29日、ふもとの原村は、おいおいというくらい、雪がない。気温は低いので人工雪のスキー場だけが白い、ちょっと異様な風景だ。赤岳山荘駐車場はいっぱい。コロナ後の登山復活を実感した。赤岳鉱泉テント場でまたびっくり。雪がない。凍土の地面に幕営。30日3時起き-5℃。空が白む7時前に大同心沢最上部を右にトラバース、小同心正面クラックルート取付きへ。登攀開始8:05。晴、弱風-7℃。何と無雪だ。普通、下から見上げて無雪でも、ホールドには雪や氷が詰まっていて指が凍えるのだが、上から見下ろしても雪がない(写真1)。何じゃこれは！百丈岩のアイゼントレとおなじじゃん。



写真1. 完全無雪の小同心正面クラックルートに取付く松田。

3ピッチの大半を松田リードで登った。完全無雪で登ったのは初めてだ。新しい発見があった。冬に必死で手がかり足がかりを求めてきたあの礫(れき)は、凍り付いた小石だとしてきり思っていたが、何と、強く固定された火山性のものであった。これなら無雪期に来て楽しめるかも？と嬉しかった。10:06横岳稜線で登攀終了。何と、全国連盟遭対部長の石川昌さんにばったり出会い写真を撮らせていただいた(写真2)。大同心基部を懸垂で下り15:00赤岳鉱泉テント着。31日は雪降る下山だった。松田さん、ありがとう。



写真2. 横岳にて 石川さん、中川、松田

コロナ明けの八ヶ岳。登山者層がすっかり変わっていた。何と、チェーンアイゼンの人ばかりが目立つ。登山道にはチェーンアイゼンの部品が結構目についた。次々と壊れているようだ。登山用品店で店員の助言を押し切ってこんなものを購入してくる人ばかりになったのかなあ、と不安になった。聞けば救助隊は、正月の八ヶ岳には必ずアイゼンの携行を、と指導しておられ、ヘリ救助もあったそうだ。単独行ソロテンも目に付く。山岳界の指導が問われている。

何と1月に馬酔木(アセビ)の花が

もうひとつは、1月31日に、何と、馬酔木(アセビ)の花が咲いていた(写真3)。これは3月にしか見た覚えがない。馬も酔うかという毒があり、牛も羊も食べないし、虫がつかないから庭木にする。昭和の里山ではウジ虫殺しに使われていた



写真3. 何と、1月、生瀬の道端に馬酔木の花が

馬酔木の花が咲いたら、さあ、花粉症の季節だ。地球は確実に温暖化している。それも沸騰と評される速度で・・・。